

# 漢文『五十歩百歩』 定期テスト対策問題 | 書き下し・現代語訳・句法の頻出設問と 解答 解答・解説

---

**問1** 恵王は、凶作のときに民を移し食料を回すなど自分なりに心を尽くして政治をしているのに、隣国より民が増えも減りもしないのはなぜか、その理由を孟子に尋ねている。

**問2** 填然(てんぜん)として之(これ)を鼓(こ)し、兵刃(へいじん)既(すで)に接(せつ)す。

《解説》「鼓之」は「之を鼓し」と返って読む。太鼓を打ち鳴らして開戦の合図とする場面。「既」は「すでに」。

**問3** 太鼓を打ち鳴らす音が鳴り響くさま。ここでは開戦の合図として軍鼓を打つ、その音の響くようすを表す。

**問4** よろい(甲)を脱ぎ捨て、武器(兵)を引きずりながら、戦場から逃げ出したということ。

《解説》「棄甲」=鎧を捨てる、「曳兵」=武器を引きずる、「走」=逃げる。敗走するありさまを表す。

**問5** 或(ある)いは百歩(ひやくほ)にして後(のち)に止(とど)まり、或(ある)いは五十歩(ごじつぽ)にして後(のち)に止(とど)まる。

《解説》「或～、或～」は「ある者は～、ある者は～」と並列して訳す形。「而後」は「～してのちに」。

**問6** 五十歩(ごじつぽ)を以(もつ)て百歩(ひやくほ)を笑(わら)はば、則(すなは)ち何如(いかん)。

《解説》「以五十歩」は「五十歩を以て」と返読する。「笑はば」は仮定の已然形+ば。文末の「何如」は「いかん」と読む疑問の語。

**問7** (1) 手段・方法を表し、「～でもって・～を使って」の意味。ここでは「五十歩(逃げたこと)を理由・根拠として」というはたらきで、「五十歩を以て」と返読する。(2) 五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑うことについて、「それはどうであろうか(おかしくはないか)」と、その妥当性・是非を恵王に問うている。

《解説》「何如」は状態・是非・可否を問う疑問の語で、「いかん」と読む。

**問8** 逃げた距離に多い少ないの差はあっても、「戦場から逃げた」という点では五十歩の者も百歩の者も同じであることに気づかせるため。そのうえで、恵王の政治も隣国と本質的には変わらないと悟らせようとした。

**問9** 読み…ふかなり。意味…「いけない・よくない(そんなことはおかしい)」という否定の答え。

《解説》恵王が「五十歩の者が百歩の者を笑うのはおかしい」と認めた返答。「不可」は「ふか」と読み、ここでは「だめだ・いけない」の意。

**問10** 直(た)だ百歩(ひやくほ)ならざるのみ。

《解説》「直～耳」で「ただ～だけだ」という限定。「不百歩」は「百歩ならず」と訳す。

**問11** イ(限定「ただ～だけだ」)

《解説》「直(ただ)～耳(のみ)」は限定を表す句法。「ただ百歩でなかっただけだ」の意。逃げた事実そのものは同じだ、という含みがある。

**問12** 五十歩逃げて立ち止まった者（五十歩逃げた兵）が、百歩逃げた者を臆病だと笑うこと。逃げた距離は短くても、逃げた事実は同じだという点を指す。

**問13** 句法の名称…禁止。 はたらき…「無（なかれ）」は「～してはならない・～するな」と禁止を表す。「民の隣国より多きを望むこと無かれ」で「民が隣国より多くなることを期待してはならない」の意になる。

《解説》「無＋（動詞）」「勿＋（動詞）」は禁止を表し、「なかれ」と読む。

**問14** 王がもしこの道理を理解するならば、(自国の)民が隣国より多くなることを期待してはならない。

《解説》「如（もし）～ば」は仮定、「無（なかれ）」は禁止。王の政治も隣国と五十歩百歩なのだから、民が増えることを望むなという結論。

**問15** (1) くわじん (2) ぞく (3) へいじん (4) はし(る)

《解説》「寡人」は王・諸侯が自分をへりくだって言う一人称。「粟」は穀物（あわ・米などの食料）。「走」は古典漢文では「(速く)走る・逃げる」の意。

**問16** 恵王は、災害時に民を移すなどの対策をして「自分は隣国の王より民のために心を尽くしている」と自負していた。しかし孟子は、そうした対策も王道（仁政）に基づく根本的な善政ではなく、隣国の政治と程度の差があるだけで本質は同じだ（＝五十歩百歩だ）と指摘し、わずかな善政を誇る恵王の姿勢を批判しようとした。

《解説》逃げた兵の距離の差＝政治のわずかな差、というたとえになっている点が要点。

**問17** たがいに少しの違いはあっても、本質的には同じようなもので大した差がないこと。「どちらも似たり寄ったりだ」という意味で使われる。

**問18** 河内が凶作のときには民を河東へ移し食料を河内へ回す、河東が凶作のときも同様に、という災害対策を行っていた点。恵王は、隣国にはこれほど民のために心を用いる政治はないと考えていた。

**問19** イ（多少の善政をほどこしても、根本が王道の政治でなければ隣国と大差はない。）

《解説》孟子は、表面的・部分的な施策ではなく、仁政（王道政治）という根本が大切だと説いている。

**問20** (1) 性善説 (2) 王道

《解説》孟子は人の本性を善とする「性善説」を唱え、徳によって民を治める「王道」を理想とした（これに対し武力・権力で治めるのが「霸道」）。

**問21** イ（大同小異）

《解説》「大同小異」は大体は同じで細かい点だけが違うこと。「五十歩百歩」とほぼ同義。アの「漁夫の利」は両者が争う間に第三者が利を得る意、ウの「矛盾」はつじつまが合わない意、エの「他山の石」は他人の誤りも自分の修養の助けになる意で、いずれも異なる。

**問22** 「どうか（～させてください）」と相手に願い出る気持ち。ここでは「(王は戦がお好きだから)どうか戦のたとえでお話しさせてください」と、孟子が恵王に対してたとえ話を切り出す丁寧な前置きを表す。